

東京修猷会

題字・松尾金蔵書
発行

修猷館同窓会東京支部
事務局

〒185-0034

東京都国分寺市光町2-14-85

(有) パルティール内

FAX 042-573-5060

東京修猷会ホームページアドレス

http://www.shuyu.gr.jp



「境界—The Border—」

青銅

宮崎光二(S45年卒) 作

Koji Miyazaki

福井大学 教育地域科学部

芸術・保健体育コース

美術サブコース 教授

1970 修猷館高等学校卒業

1976 東京芸術大学美術学部卒業

1978 同大学院鑄金専攻修了

個展、グループ展等

賞歴

1992 第4回倫理美術奨励賞

1995 佐藤基金「淡水翁賞」

1998 第1回佐野ルネッサンス鑄金展大賞

コレクション

東京芸術大学美術館

佐野市

福岡県立美術館

国立音楽大学

都立大山高校

佐賀県立名護屋城址博物館

呉羽化学

相模原市立夢の丘小学校

その他

退職の日を修猷館で迎える 喜びと寂しさ



修猷館館長
古田智信

館友の皆さん、明けましておめでとうございます。
退職まで残り少なくなった私が、いま文章を書くこと
とすると、どうしても三十八年間の県立高校教員の生
活を総括するようものになってしまふ。平成十八年
の年頭を飾る東京修猷会の会報に掲載していただくも
のとして、決して相応しいものではないと思うが、伏
して御寛恕を乞う次第である。

昭和四十三年四月、私は県立高校の教諭として採用
された。それからの三十八年を大きく区切ると、教諭
として三つの高校で二十年、福岡県教委事務局指導主
事として三つの部署で十年、教頭として三つの高校で
四年、校長として三つの高校で四年である。

四十二歳のときに指導主事になり、授業や担任の仕
事から離れた。その後県教委事務局を出入りしたので、
教頭・校長として実際に学校経営に当たることができ
た年月は、わずか八年という短さである。しかも、一
年勤務という学校が、六校中四校もある。

そのことに大きな不満を持っているわけではない
が、あまりにも在籍期間が短いために、教頭・校長と
して務めたどの学校においても、自分らしい足跡を残
すことができなかったという悔いがある。だから、も
し私の退職前の学校が、修猷館高校でなかったとすれ
ば、退職の喜びは、それほどでもなかったであろう。

幸い、私は大きな喜びのもとに、修猷館高校を退職
しようとしている。それだけではない、公立高等学校
長協会の会長という大役を担い、百人を超す県立学校
長のうち、わずか二名しか戴くことができない文部科
学大臣教育者表彰という栄誉まで受けて退職すること
ができる。私の栄誉、そして退職の喜びや満足感はず
べて修猷館高校のお陰である。

私に喜びをもたらすものは、生徒の修猷館に寄せる
強い気持ちである。本校生徒会が不定期に発行してい
る「議長団通信」という手書き文字印刷の新聞がある。

その最新号の「議長日記」の一文を引用してみる。

「修猷ってすばらしい」と思うことが、ときどき、い
やしばしばある。この修猷で過ごせる自分は何と恵ま
れているのだろうかと思うほどだ。だから、少しでも
多く修猷に関わりたい、修猷のために何かしたい、そ
う思っている。私はこの学校が大好きなのだ。「愛校
心」を皆持っているだろうか？この修猷は私たちにあ
らゆることを学ばせてくれる。私たちが「修猷生」で
あり得るのは、他でもないこの修猷のお陰である。何
も「修猷に忠誠を誓え」などというわけではない。ま
ずは「愛校心」を持つことから始めてみよう。そして、
修猷のためにできること、何でもいからやってみよ
う。きっとそれは自分のためにもなるはずだ。」

このような気持ちを持つ修猷生は、決して一人や二
人ではない。本当に多くの修猷生が修猷館を深く愛し、
修猷館のために何かをしたいと考えて学校生活を送っ
ている。このような修猷生の気持ちは、館長として、
何よりも大きな喜びである。

修猷館同窓会の方々の修猷館に寄せる気持ちも、現
役の生徒に負けないほどに熱いものがある。東京修猷
会をはじめすべての同窓生の方々にとって、修猷館は
いまなお自己のアイデンティティの大きな拠り所と
なっている。

生徒と同窓生の修猷館に対する熱い気持ちを背に受
けて、生徒や同窓生に負けてなるものかという強い気
持ちで二年間館長を務めてきた。なお自分自身の心に
修猷愛が燃えさかる中、年満ちて退職できる喜びは、
筆舌に尽くしがたいものがある。

しかし、同窓生でない私にとって、退職後の自分と
修猷館をつなぐすがすがしい前線長という心細いもの
ではない。まことに詮ないものとは言え、その寂しさ
は、生徒にも修猷同窓生の方々にも分かってもらえな
いような気がする。



東京修猷会二〇〇六年活動スケジュール

二木会は六、八月を除く
毎月第二木曜日

六時から食事、七時から講演

1月

会報発行 元旦に全会員に送付

一月十二日 二木会 於：学生会館

山崎拓 昭和十九年卒

2月

二月九日 二木会 於：学生会館

3月

三月九日 二木会 於：学生会館

下旬 常任幹事会(決算見直し、
総会内容発表等)

4月

四月十三日 二木会(新人歓迎会)
於：学生会館

四月十六日 どんたく
二木会ゴルフコンペ

5月

五月十一日 二木会 於：学生会館

6月

六月十六日(金) 総会
「東京修猷力！ 隣校と親睦再発見」
於：都市センターホテル
(幹事学年は五五年卒) 午後六時より

7月

七月十三日 二木会 於：学生会館

9月

九月十四日 二木会 於：学生会館

10月

十月十二日 二木会 於：学生会館

下旬

常任幹事会(総会報告、
来年度総会計画発表等)

11月

十一月九日 二木会 於：学生会館

12月

十二月十四日 忘年会
二木会ゴルフコンペ

下旬

どんたく
二木会ゴルフコンペ

11月

十一月九日 二木会 於：学生会館

12月

十二月十四日 忘年会

11月

十一月九日 二木会 於：学生会館

12月

十二月十四日 忘年会

この他、執行部としては、総会準備のため
の幹事学年との打ち合わせ、会報編集
会議、他支部の同窓会総会への出席など
随時行っています。

平成十七年総会学年企画
「修猷館 文武両道」——栄光の歴史——実録
芝剛史(S54年卒)

古田智信館長ご挨拶

明日が修猷館の文化祭です。多くの高校の文化祭がエンターテイメント化の中で、修猷館では文化的香りがする本場の意味での文化祭を保っています。最も優秀なものに、館長賞を与えることとなっています。この評価は自らの目で行わなくてはなりません。生徒たちの活動を最初から最後まで見届けるため、今日中に帰郷します。このため東京修猷会総会は早めに退席することをお許しください。

波多野聖雄
同窓会会長ご挨拶

先の地震では、新体育館の天井が、横十五メートル、幅三メートルで崩落しました。海岸では震度七を記録しています。修猷館は海岸に近いため地震の被害が深刻だったようです。あのような地震の経験は初めてでした。机の下にもぐり込めないほど揺れました。関東地方の方々は十分にお気をつけいただきたいと思っています。(笑)

来々、講堂が完成します。これで日本最高の校舎が出来上がると思います。あとは生徒の質の問題ですが、館長先生以下、現役の先生方にお願いするしかありません。(笑)

無津呂先生のお話

修猷館創立二百二十周年記念講演会では、中曽根康弘元総理を修猷館にお招きし、日露戦争以降の戦後史につきお話をいただきました。この記念講演で生徒に与えた感銘は大きいものがありました。中曽根元総理が修猷館の生徒に話したことが、これを尊び、そして良い縁にすること。これが大事なことで、ということ、最後に「尊縁瑞縁」という言葉で締めくくっておられました。中曽根元総理の招聘にあたっては東京修猷会の方々、山崎拓様にご尽力を頂き、講演会が実現しました。厚く御礼を申し上げます。

白川先生のお話

山崎君が運動会の練習で骨折したのは、運動会で使う神輿を十何人かで担いでいた時に誰か一人が足が突っかった。みんながパニックになったのですが、ブロック長だった彼は最後まで担いでいた。それで一人、骨折したので、倒れている彼に「どうしたとや」と聞くと、彼は平然と「自分の経験では骨折しておるようです」と答えたのを憶えています。そして彼はその後で、救急車で運ばれていきました。すごい奴だと思いました。



幹事学年企画

我が修猷館は、柔道、剣道、水泳、ラグビー、バレー、陸上、ヨットなど全国レベルの活躍で名を馳せた部活動が少なくない。また文化部の活動もユニーク。題して「修猷館 文武両道——栄光の歴史」。ビデオは、四百人以上が集まった懇親会場の壁一面に投射。大迫力かつ鮮明な画面に驚嘆の声が上がった。

さらにもう一方の壁には、母校の部活動各年の部員集合写真がずらりと貼られた。写真の前は、自分の顔、友の顔、先輩、後輩を探す人でいっぱい。懇親会では、昭和二十年代半の卓球部の大先輩がマイクで「卓球部OBはバネル前に集合！」と呼びかける一幕も。

ビデオの内容は次の通り。

①水泳部

○葉室鐵夫さん(昭和十年卒)ベルリンオリンピック200m平泳ぎ金メダリスト。進学浪人の高木先輩が毎日ブルサインドに来て行った科学的トレーニングはプロも認めるものだった。そしてライバル小池選手との勝負など。

②剣道部

○国代竜一さん(昭和五十八年卒)昭和五十七年高校総体100m自由形優勝。決勝レースのラスト25mで息継ぎしたときの光景と「おつ。勝つ」という記憶は今でも鮮明。

③陸上部

○井出俊介さん(昭和二十七年卒)昭和二十六年ハンマー投げ高校記録樹立。全国優勝(年卒)五種競技で昭和四十九年、五十年と二年連続で全国大会出場。全国七位、八位に輝いた。骨折しながらも出場した予選大会の思い出。陸上競技を通じて学んだ、勝つための苦悩、自分との戦いの経験が社会で役に立っていることなどを語っていた。

④柔道部

○岩滝祐貴さん(平成十六年卒)400mハードル世界ユース七位。国体準優勝。現在、筑波大学の一年生。中学時代に200mハードルで全国優勝したものの、世界を狙うために400mハードルに転向。修猷館時代にアスリートとして生きていくことを決意。オリンピック目指して頑張る岩滝君！会場からは拍手がおこった。

なつてしまった修猷新聞。船場さん(平成九年卒)の「絶対に捨てられない新聞を作りたいたい」という強い思いが、新しい修猷新聞を作るきっかけになった。伝統は未来へと引き継がれた。

⑦ラグビー部

○岡本圭吾先生(昭和二十六年卒)現在のラグビー部監督である。今の修猷館ラグビー部は全国で二十指に入る実力を持っている。普通の高校生でも工夫すれば東福岡に勝てる。そのためには同じ練習をしていくはダメだ。個性を活かし、得意技を作ることが大事と熱く語っていた。

⑧現役生からのメッセージ

吹奏楽部、書道部、剣道部、柔道部、野球部、サッカー部、軟式テニス部、バスケットボール部、バレーボール部、陸上部、水泳部、ラグビー部の現役諸君が、元氣いっぱい姿をカメラの前で披露。サッカー部の裸踊り、出来たての新プールで飛び込みバタフライには会場も爆笑。

記事後記

また、学年企画「修猷館 文武両道——栄光の歴史」の制作にあたっては、母校の吉井教頭、志戸田先生、岡本先生をはじめ、各部活動の顧問の先生方にご協力いただいた。また城南高校の梅野校長、泉先生にも協力いただいた。この場をお借りして御礼申し上げます。

ラグビー部OB

平島正登さん(S30年卒)のビデオ上映後に、ラグビー部OBの平島先輩にご登壇いただき、歴史ある修猷館のラグビー部について語っていただきました。昭和二十四年に全国制覇した時のメンバーである中上一さん(S25年卒)も登壇いただきました。

修猷館ラグビー部は今年、創部八十周年を向かい、四月末に記念式典を母校で行ったところ。日本のラグビー部で最も古い慶応大学が百周年ですから、八十周年というのは古い歴史を持つ部です。昭和二十八年当時の部員数は約三十名に對して、現在は女子マネージャーも

第17回 東京修猷会と二木会ゴルフコンペの報告
福田 公登志(S54年卒)

第17回二木会ゴルフは、10月16日(日)に筑波東急ゴルフクラブで開催されました。参加者の多くが修猷OB有志によるゴルフ同好会。どんな会場のメンバーであることから、今回より「東京修猷会」と名称を変更することにしました。藤井会長を始め女性2名を含む21名の参加をいただきました。

あいにく小雨の中のスタートとなりましたが、日頃の行いの良いメンバーが揃っていることも有り、午前のラウンド中には雨も上がり、緑が美しく煙る筑波の景色の中で、OB、OGの方々の元氣なプレーが繰り広げられました。

雨の中で普段の実力を発揮できなかった方も多かったと思われませんが、悪天候にもかかわらず皆さんお元氣で最後の表彰式まで笑顔が絶えない明るい会となりました。

ダブルペリエで競われた結果、優勝はグロス92で松尾隆広さん(S54年)、準優勝はグロス82でベスグロの鹿原島正信さん(S46年)、女子ベスグロは伊藤洋子さん(S35年)が獲得されました。

今回は6組での開催となりましたが、次回は更に盛大な会にしたいと考えております。次回開催は4月16日(日)を予定しておりますので、皆様のご参加を心よりお待ちしております。(場所等は決定次第ホームページでご案内いたします。)



同窓生の本

「生活しながら治す摂食障害」

西園 文 (S54年卒)
女子栄養大学出版部

拒食症、過食症などを総称して摂食障害と言いますが、かつて「思春期やせ症」という言葉があったように、今でも「摂食障害は、思春期女子の病気」というイメージがあると思います。ところが、実際には患者さんの年齢はさまざまで、最近では、10年以上闘病なさっている方も珍しくありません。だんだん症状が軽くなる場合も多いのですが、闘病による空白期間が長いと、その後の人生設計には少なからぬ影響があります。過食代が1日1万円もかかるのに、親が退職したらどうするか？ただでさえ就職は難しいのに、履歴書には何を書けばよいのか？症状をかかえながら、どうやって子育てするのか？「思春期やせ症」では、「自立と依存の葛藤」が中心なテーマだと言われていることが、これは、主に精神面のことでした。今、闘病中の成人患者さんたちは、生活をどうするかという問題にも直面しています。この感覚は、もちろん世の中の経済状況の影響もあります。

「強いだけじゃ勝てない」
関東学院大・春日廣
松瀬 学 (S54年卒)
光文社新書

最近の学生ラグビー界は、関東学院大と早稲田大のマッチレースが続いている。両チームがなぜ強いのか。「早稲田ラグビー再生プロジェクト」(新潮社・既刊)につづき、「春日ラグビー」の秘密に緻密な取材で迫ったのが、この本である。

部員8人の弱小チームから、大学選手権決勝8年連続出場、5回優勝の強豪へ、どうやって変わったのか。ドラマ満載。いわば、大学版スクールウォーズ仕立てとなっている。

この本は、患者さんやご家族向けの本書です。摂食障害の本は、数多く出版されていますが、病気の成り立ちの心理を中心にしたものも多く、今どうすればよいかに対しての手がかりが少なくないという患者さんの声を聞いて書きしました。摂食障害の治療

生活しながら治す摂食障害

西園 文

学校・仕事探しからパートナーとの良好関係まで、ライフスタイルを懇切丁寧にアドバイスします。なかなか自立できないという人にもおすすめです。

巻末付録「あなた用書き込みシート」

強いだけじゃ勝てない

松瀬 学



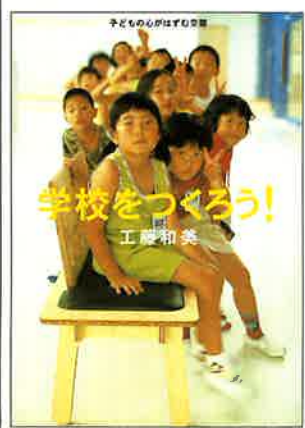
本は2005年1月9日、大学選手権の決勝戦で、関東学院大が早稲田に敗れた瞬間から始まる。自らを「コンプレックスの塊」と表現する春日監督。その生きざまとチーム作りを身近な取材者でしか知り得ないエピソードを交えて、分析している。

31年前の就任当初は、ボールも専用グラウンドもゴールポストもない弱小ラグビー部だった。だが、春日監督は「長所を伸ばす」「楽しませる」をモットーに一歩ずつ前進してきた。「ラグビーは仲間づくり」という続け、大先輩に就いた。本のタイトル「強いだけじゃ勝てない」は、関東学院大が慶応に敗れた際、春日監督から聞いた言葉だ。「周りから応援され、愛されるチームじゃないといけない。だから人づくりは必要なのだ」その言葉は、すべてのスポーツ、社会に通じる。単なるヨイショ本ではなく、コーチ解任や暴行事件など、ダークな話も隠さず書かれている。人間味あるエピソードが多いので、ラグビーを知らない人でも面白く読める。

「学校をつくらう」
子どもの心はほほえむ空間

工藤 和美 (S54年卒)
TOTOTO出版刊

「大人が未来へ向けて、子ども達のためにすべきこと」以前、同窓会雑誌「菁莪」にて、福岡市立博多小学校の完成までの道のりを寄稿させていただいたことがありますが、ご記憶にありませんでしょうか。大学進学で上京して以来、仕事と生活のペースが東京となった私が、初めて故郷で取り組



二本より
戦艦やマト出撃！

高岩 淡 (S23年卒)

11月の二本会は、東映会長の高岩淡氏を迎えて、戦艦大和を巡る映画「男たちの大和-YAMATO-」についてお話をいただいた。迎見じゅんが生存者に徹底取材したドキュメンタリーを基にしたもので、戦後60年記念作品と銘うっている。尾道に作られて06年3月末まで一般公開されている実物大の戦艦大和セットは初日2日間1万人もの見学者が訪れたという。高岩さんからは、日本の歴史の事実を知ってほしい、強い批判もあった中作られた「大和」は当時の日本人の知能と技術の結晶であったこと、その技術は戦後日本の復興に、造船、光学、ホンダやソニーなど各企業研究所に引き継がれて行ったこと、戦争ものという敬遠しがちな私達に、今ブームともなっている昭和史に目を向けさせ、そして何故大和は戦艦の援護もないうまま沖繩に向けて出航していったのか、興味の尽きないお話をいただいた。



仕事いろいろ
ワインに魅せられて

松岡 聖子 (S54年卒)

現在勤務しているベリー・ブラザーズ&ラッド社は、1698年創業、300年の歴史を誇る英国で最も古いワイン商です。バックingham宮殿、セントジェームズ宮殿近くに位置しており、ロンドン社交界の中心地という場所柄、この店には多くの著名人や王侯貴族が足を運びました。顧客リストには、バイロン卿、ナポレオン3世、ウェリントン公、ローレンス・オリビエ、ヴィアン・リーなど名を連ねています。1903年には、英国王室御用達という栄誉を受け、ワイン商としての地位を不動のものにしました。ところで、英国とワインがすぐに結びつかない方も多いのではないのでしょうか。実はロンドンにはワイン貿易の中心地なのです。その歴史的背景には、1152年にアキテーヌ公国のエリザベラ2世と結婚し、100年戦争が終わる1453年までポルドー地方が英国領となっていたことがあります。当時既に名高かったポルドーワインが、容易に入手できるようになり、イギリスでのワインに対する嗜好はますます深まりました。また、舌の肥えた王侯貴族のために、ワイン商は遠く離れた産地へと足繁く買い付けの旅にでかけ、世界各国からあらゆるワインを運び込んできました。こうした土壌で、多くのワイン商が育ってきたのです。現在でも、ワインの本場といわれるフランスよりもその種類は幅広く、スーパーマーケットでさえ、新旧両大陸のワインがずらりと並んでいます。イギリスでは、優れたワインがほとんど造られなかったからこそ、各地の良質のワインが集まってきたといえるでしょう。新大陸の造り手たちは、まずロンドン市場を目指します。なぜなら、ロンドンでの評価は品質保証とステータスとなり、即座に世界的なネットワークの波に乗ってしまうからです。ま



に世界中のワインを試し、見定めるには最高の場所。ロンドンは、生産者が目指すところだけでなく、ワインの魅力に惹かれ、趣味が高じて、本場でワインビジネスに一度は従事してみたいと思う人々が集まる場所でもあります。そして、私もそのひとりでした。

このワイン商との出会いは、1993年の秋のことです。当時は全く違う職種でしたが、休暇をとって渡英しては、ワインを試飲していました。ワイン商を次から次へと訪れていた中で、ベリー・ブラザーズ&ラッドの本店の前での光景は、今でも忘れることはできません。あいにく定休日でも閉まっていなかったが、その重々しい黒い扉、歴史を感じさせる外観に、強く惹かれるものがありました。ロンドンに行く度に、ハロッズのワイン売り場に通っては、陳列されたワインを食い入るように見つめ、購入するワインを吟味していました。ある日、その売り場のマネージャーが、本格的にワインを勉強するように勧めてくれました。そしてその2年後に、当時日本市場への展開を試みていたベリー・ブラザーズ&ラッドの担当者の方に、面接の誘いが届いたのです。まさか、あの憧れのワイン商から声がかかってくるとは思いもよりませんでした。強い想いがあれば、それが原動力となり、夢がかなうのかもしれない。こうして、1995年に入社



(95年9月からベリー・ブラザーズ&ラッド社でワイン・コンサルタントとして勤務。98年には、日本人として2人目(当時)の、英Wine and Spirit Education Trust Diploma (ワイン・アンド・スピリッツ教育トラストのディプロマコース)を取得。現在、同社の日本担当統括部長として、顧客へのアドバイスやワインスクールの講師を担当する)

開基クラブへの案内
「あびす会開基同好会」
辻本 治
(S30年卒)

大学生活を振り返って
早稲田大学 四年 秋本 泰行

この会報を手にとって読まれた大学生の方々。大学生活とは、本当に誘惑の多い季節です。しかし、同時に本当に実り多き季節でもあります。遊びを知らずに大学生活を終えるのも賢明とはいえないですが、遊びだけで終えることだけはしないでください。

と実感したからである。私にとって、大学進学は大きな意味を持っている。これから私は自分探しの旅に出る。最終的に何処で根を下ろしたいのかを念頭に置き、常に素直な人間であり続けたい。また、実は、この旅に終点は無い。なぜなら、ここで意味する旅は自分を探索することであり、未知の世界にいるかもしれない新たな自分を探し続けてこそ、人生を全うできると考えるからである。私にとって、旅の契機になった大学時代を生かすも殺すも自分の意志次第である。私は大海原へ乗り出したばかりである。全身に風を受け、帆を上げて突き進んでいきたい。

自分を問うたことがあるだろうか。私は、この行為こそが、自分の人生を見定めていく出発点であると考える。なぜなら、自分がどんな人間かを把握することなしに、将来の方向性を見据えることは不可能であると思うからである。では、如何にして悩むのか。まず、今の自分を分析することが必要である。つまり、性格、知識、趣味といった、自己を特徴付けるものを把握・認識する。そしてそれらを正確に受け止めるプロセスを踏むのである。この自己を特徴付けるものは、その主体が有する属性である。従って、この属性こそが「自己」を創造しているのである。次に肝心なのは、このプロセスが主観的ではなく客観的であること。主観的になると自分の殻の中に閉じこもる傾向が強くなり、外部から自己を対象化させて観察できなくなるのだ。つまり、いくら自己の内面を思考しても、内部から外部から両方を併けなければならない。このプロセスを経て「自己問題点」の発見へと繋がるのである。すると次の段階は、課題に対する解決策の探求、目標の設定、行動の開始と道程は移行するであろう。この一連の過程を経て、はじめて「自己改善」と繋がるのである。そして私達はある人格へと成長していくのである。自分の人生なのだ。人生一度きりだ。ぼんやりと過ごしていたら、勿体ないではないか。今回このように、私が自分の人生を見定めることについてここまで深く考察できたのは、独立し始めたのだ、

とを覚えている。しかし今の自分もそれほど変わらないのではないだろうか。何とも学力に限ったことではない。そもそも頭を使わなくなっているように思う。ひとつの物事について、自分が納得いくまで、どれほど考えているだろうか。時間を作ろうとさえしていないのに、時間がないと言いつつしてはいないだろうか。知識や教養をつけることより、ずる賢くなつて逃げ道の作り方がうまくなっている気がする。

私は現在大学二年生だが、周りの友人は自分の将来像を描き、資格の勉強だ、インターンだ、と忙しなくなってきた。しかし私は自分の方向性をいまだに決めきれずにいる。振り返ってみれば高校時代からそうだった。決定的な理由もなく理系を選び、浪人時代に文系へと志望を変えてこまど来た。もちろん無関心なわけではないし、いろいろなことに触れて自分の可能性を試してみたいと考えている。だがそれも、た

昨年、の当会報で紹介がありました「あびす会開基同好会」は、現在40名ほどの会員を抱えており、2005年の1年間、欠かすことなく毎月第3土曜日にあびす会事務局を対局場としての囲碁の集いを実施しました。このうち、2月、6月、10月は大会（参加費要／賞品あり）、あとの月は例会（参加費不要／賞品なし）でした。大会には20名前後の、また例会には10名前後の会員がかけつけ、それぞれ日頃の研鑽で磨いた腕前を披露する場として利用してくれました。

これ以外に、数年来恒例になっている熊本高校開基同好会（中園道場）との交流対局も今までの年1回から2回に増加させて4月と9月に行われましたが、結果は1勝1敗の相星でした。

2006年も引き続き第3土曜日を定例日として大会／例会を実施するとともに、熊本高校との交流対局も春と秋に行われる予定です。1月は21日（土）が例会実施日となっています。なお、あびす会の存在をまだご存知でない開基好きの館友諸兄姉の参加大歓迎です、気軽にお出かけください。場所：「あびす会事務局」

私の大学生活は、一・二年のころは、ラグビー漬けだった青春を取り戻そうとしていたのかの如く、飲んで騒ぐという毎日を送っていました。しかし、三年の夏、そんな空騒ぎに漠然と飽和感を覚え始めた私に、大きなターニングポイントが訪れました。その契機となったのは、高校時代の恩師の一言でした。

先生の言葉は、「大学時代は、人生にとって非常に有意義な時間であり、人格形成など本当に意味のある重要な時間であること」「多くは、その自由度の高さから志や目標を見失い、卒業の時期になつて無為に過ごしてしまったことを後悔する」など、自分にとっては非常に耳の痛い内容で、自身の自堕落な大学生活を見透かされたように思わずに赤面してしまつたのを覚えています。

以降は、「東京という広い世界で素晴らしい人間と交流し、器の大きな人間になる」という不明瞭ながら本来持つべき目標を自覚し、互いに尊敬できる友人を作り、社会人の方々と交流できる機会を求めるなど積極的に活動するようになり、また、特に、二木会をはじめとする東京修猷会の各種イベントへの参加は、実現が困難な世代の連う人々との交流を可能にしてくれました。そこに集う先輩方が胸襟を開いて真摯に対応してくださつたことで、「修猷館のよさ」というものを改めて再認識することもできました。

今から考えてみると、不眠不休で遊んだことも、様々な方の貴重な意見や考えに接することができたことも、自らの見識を広げることにつながりました。一つの結果として就職活動を始めとする諸活動に成果を残すことができたと考えています。

「あびす会事務局」
渋谷区恵比寿三ー一七
TEL/FAX:03-3446-4482
参加申込み、問合せは「あびす会事務局」
(http://www.abiusuhyokan.or.jp)
又は幹事まで
幹事・辻本治(S30年卒)
TEL/FAX:042-341-6154
田中正夫(S36年卒)
TEL:03-3432-5821
FAX:03-3435-7324
月例会に関する問合せは左記の例会幹事まで
山田昌男(S35年卒)
TEL/FAX:043-256-3865
河辺勲(S35年卒)
TEL:03-3720-7325

「あびす会事務局」
TEL/FAX:03-3446-4482
参加申込み、問合せは「あびす会事務局」
(http://www.abiusuhyokan.or.jp)
又は幹事まで
幹事・辻本治(S30年卒)
TEL/FAX:042-341-6154
田中正夫(S36年卒)
TEL:03-3432-5821
FAX:03-3435-7324
月例会に関する問合せは左記の例会幹事まで
山田昌男(S35年卒)
TEL/FAX:043-256-3865
河辺勲(S35年卒)
TEL:03-3720-7325

自己と対話
お茶の水女子大学 一年 森 弥子

「甘さ」
一橋大学 二年 中村 暢孝

「甘さ」
一橋大学 二年 中村 暢孝

「甘さ」
一橋大学 二年 中村 暢孝

「甘さ」
一橋大学 二年 中村 暢孝

「あびす会事務局」
渋谷区恵比寿三ー一七
TEL/FAX:03-3446-4482
参加申込み、問合せは「あびす会事務局」
(http://www.abiusuhyokan.or.jp)
又は幹事まで
幹事・辻本治(S30年卒)
TEL/FAX:042-341-6154
田中正夫(S36年卒)
TEL:03-3432-5821
FAX:03-3435-7324
月例会に関する問合せは左記の例会幹事まで
山田昌男(S35年卒)
TEL/FAX:043-256-3865
河辺勲(S35年卒)
TEL:03-3720-7325

「あびす会事務局」
渋谷区恵比寿三ー一七
TEL/FAX:03-3446-4482
参加申込み、問合せは「あびす会事務局」
(http://www.abiusuhyokan.or.jp)
又は幹事まで
幹事・辻本治(S30年卒)
TEL/FAX:042-341-6154
田中正夫(S36年卒)
TEL:03-3432-5821
FAX:03-3435-7324
月例会に関する問合せは左記の例会幹事まで
山田昌男(S35年卒)
TEL/FAX:043-256-3865
河辺勲(S35年卒)
TEL:03-3720-7325

「あびす会事務局」
渋谷区恵比寿三ー一七
TEL/FAX:03-3446-4482
参加申込み、問合せは「あびす会事務局」
(http://www.abiusuhyokan.or.jp)
又は幹事まで
幹事・辻本治(S30年卒)
TEL/FAX:042-341-6154
田中正夫(S36年卒)
TEL:03-3432-5821
FAX:03-3435-7324
月例会に関する問合せは左記の例会幹事まで
山田昌男(S35年卒)
TEL/FAX:043-256-3865
河辺勲(S35年卒)
TEL:03-3720-7325

「あびす会事務局」
渋谷区恵比寿三ー一七
TEL/FAX:03-3446-4482
参加申込み、問合せは「あびす会事務局」
(http://www.abiusuhyokan.or.jp)
又は幹事まで
幹事・辻本治(S30年卒)
TEL/FAX:042-341-6154
田中正夫(S36年卒)
TEL:03-3432-5821
FAX:03-3435-7324
月例会に関する問合せは左記の例会幹事まで
山田昌男(S35年卒)
TEL/FAX:043-256-3865
河辺勲(S35年卒)
TEL:03-3720-7325

「あびす会事務局」
渋谷区恵比寿三ー一七
TEL/FAX:03-3446-4482
参加申込み、問合せは「あびす会事務局」
(http://www.abiusuhyokan.or.jp)
又は幹事まで
幹事・辻本治(S30年卒)
TEL/FAX:042-341-6154
田中正夫(S36年卒)
TEL:03-3432-5821
FAX:03-3435-7324
月例会に関する問合せは左記の例会幹事まで
山田昌男(S35年卒)
TEL/FAX:043-256-3865
河辺勲(S35年卒)
TEL:03-3720-7325

「あびす会事務局」
渋谷区恵比寿三ー一七
TEL/FAX:03-3446-4482
参加申込み、問合せは「あびす会事務局」
(http://www.abiusuhyokan.or.jp)
又は幹事まで
幹事・辻本治(S30年卒)
TEL/FAX:042-341-6154
田中正夫(S36年卒)
TEL:03-3432-5821
FAX:03-3435-7324
月例会に関する問合せは左記の例会幹事まで
山田昌男(S35年卒)
TEL/FAX:043-256-3865
河辺勲(S35年卒)
TEL:03-3720-7325

「あびす会事務局」
渋谷区恵比寿三ー一七
TEL/FAX:03-3446-4482
参加申込み、問合せは「あびす会事務局」
(http://www.abiusuhyokan.or.jp)
又は幹事まで
幹事・辻本治(S30年卒)
TEL/FAX:042-341-6154
田中正夫(S36年卒)
TEL:03-3432-5821
FAX:03-3435-7324
月例会に関する問合せは左記の例会幹事まで
山田昌男(S35年卒)
TEL/FAX:043-256-3865
河辺勲(S35年卒)
TEL:03-3720-7325

「あびす会事務局」
渋谷区恵比寿三ー一七
TEL/FAX:03-3446-4482
参加申込み、問合せは「あびす会事務局」
(http://www.abiusuhyokan.or.jp)
又は幹事まで
幹事・辻本治(S30年卒)
TEL/FAX:042-341-6154
田中正夫(S36年卒)
TEL:03-3432-5821
FAX:03-3435-7324
月例会に関する問合せは左記の例会幹事まで
山田昌男(S35年卒)
TEL/FAX:043-256-3865
河辺勲(S35年卒)
TEL:03-3720-7325

「あびす会事務局」
渋谷区恵比寿三ー一七
TEL/FAX:03-3446-4482
参加申込み、問合せは「あびす会事務局」
(http://www.abiusuhyokan.or.jp)
又は幹事まで
幹事・辻本治(S30年卒)
TEL/FAX:042-341-6154
田中正夫(S36年卒)
TEL:03-3432-5821
FAX:03-3435-7324
月例会に関する問合せは左記の例会幹事まで
山田昌男(S35年卒)
TEL/FAX:043-256-3865
河辺勲(S35年卒)
TEL:03-3720-7325

「あびす会事務局」
渋谷区恵比寿三ー一七
TEL/FAX:03-3446-4482
参加申込み、問合せは「あびす会事務局」
(http://www.abiusuhyokan.or.jp)
又は幹事まで
幹事・辻本治(S30年卒)
TEL/FAX:042-341-6154
田中正夫(S36年卒)
TEL:03-3432-5821
FAX:03-3435-7324
月例会に関する問合せは左記の例会幹事まで
山田昌男(S35年卒)
TEL/FAX:043-256-3865
河辺勲(S35年卒)
TEL:03-3720-7325

「あびす会事務局」
渋谷区恵比寿三ー一七
TEL/FAX:03-3446-4482
参加申込み、問合せは「あびす会事務局」
(http://www.abiusuhyokan.or.jp)
又は幹事まで
幹事・辻本治(S30年卒)
TEL/FAX:042-341-6154
田中正夫(S36年卒)
TEL:03-3432-5821
FAX:03-3435-7324
月例会に関する問合せは左記の例会幹事まで
山田昌男(S35年卒)
TEL/FAX:043-256-3865
河辺勲(S35年卒)
TEL:03-3720-7325

「あびす会事務局」
渋谷区恵比寿三ー一七
TEL/FAX:03-3446-4482
参加申込み、問合せは「あびす会事務局」
(http://www.abiusuhyokan.or.jp)
又は幹事まで
幹事・辻本治(S30年卒)
TEL/FAX:042-341-6154
田中正夫(S36年卒)
TEL:03-3432-5821
FAX:03-3435-7324
月例会に関する問合せは左記の例会幹事まで
山田昌男(S35年卒)
TEL/FAX:043-256-3865
河辺勲(S35年卒)
TEL:03-3720-7325

「あびす会事務局」
渋谷区恵比寿三ー一七
TEL/FAX:03-3446-4482
参加申込み、問合せは「あびす会事務局」
(http://www.abiusuhyokan.or.jp)
又は幹事まで
幹事・辻本治(S30年卒)
TEL/FAX:042-341-6154
田中正夫(S36年卒)
TEL:03-3432-5821
FAX:03-3435-7324
月例会に関する問合せは左記の例会幹事まで
山田昌男(S35年卒)
TEL/FAX:043-256-3865
河辺勲(S35年卒)
TEL:03-3720-7325

「あびす会事務局」
渋谷区恵比寿三ー一七
TEL/FAX:03-3446-4482
参加申込み、問合せは「あびす会事務局」
(http://www.abiusuhyokan.or.jp)
又は幹事まで
幹事・辻本治(S30年卒)
TEL/FAX:042-341-6154
田中正夫(S36年卒)
TEL:03-3432-5821
FAX:03-3435-7324
月例会に関する問合せは左記の例会幹事まで
山田昌男(S35年卒)
TEL/FAX:043-256-3865
河辺勲(S35年卒)
TEL:03-3720-7325

6.16

今年は第3金曜日

06

東京修猷会2006年度総会のご案内

テーマ：「東京修猷力！誘掖と親睦再発見」

2006年6月16日（金）18:00より平河町：都市センターホテル

幹事学年：GOGO会（昭和55年卒）

ご参加者に会員各位のメッセージを集めた冊子を贈呈。同封のアンケートへのご協力を！

会長便り
質朴剛健と修猷生雜觀

藤吉 敏生
(S26年卒)

昨年十月初旬、私達昭和二十六年卒は五十五年記念行事のため母校修猷館に集まった。

まずは新装なった校内を見学しようというわけだ。新校舎はほぼ完成していたが、そのりっぱさを目を奪われた。冷暖房設備が完備しているのは言うに及ばず、明るい教室、広ろびろとした体育館、学生食堂、茶室と見て廻るにつれ、いまの修猷生は高校生活を十二分にエンジョイ出来るなどしみじみ感じた次第だ。ついでに言わせてもらえば、館長室も旧校舎に比べりっぱだった。第二次大戦直後の時代に修猷館に籍をおいた私達の六年間は、教室も机もやぐたばっていた。当時といまを比べると無理とはいえないものの、いまの生徒は仕合せすぎるように感じたのは私一人だったろうか。

誤解のないように記しておくが、りっぱな新校舎に異論を唱えるものではない。むしろ好環境の下で、すばらしい修猷生が育っていくことを期待しながら、学校を後にした。そして、ハードに見合ったソフトの充実にかける先生方の教育方針を信じてみる。いま一つ記させて戴だ

05 総会報告

松瀬 学
(S54年卒)

『よか晩じゃ。旧交あため、美酒に酔う』

2005年6月3日

東京修猷会総会・懇親会

「よか晩じゃ。シムウユ」は元気がいい。戦前卒のOBがつぶやく。集える修猷OB、五〇〇人。宴会場の熱気たるや、その夜あったサッカーW杯予選の日本×パレンのスタンドにも匹敵するものだった。

総会は格調高くも温かく、恩師のトークには笑いがこぼれ、拍手が渦巻く。宴会場に移ったの懇親会は「これぞ修猷」のノスタルジーにあふれた。いわば清冽なる叙情が。

ハイライトが学年企画のビデオである。テーマが「文武両道」。一〇数分の映像に幾多の栄光をぎゅっと凝縮する。水泳の五輪金メダリストの葉室鐵夫先輩らのインタビューから、ラグビー部の一九四九年（昭和二十四年）に、女子の生徒にその傾向が強いとか。「剛健」は女性上位になりつつあるのだろうか。今年は、東京修猷会もOGの皆さんに大いに活躍して欲しいと願っている。修猷のOB、OGが一体となった東京修猷会の前途が楽し

みだ。運動部だけでなく、新聞部、

部の一四九九年（昭和二十四年）に、女子の生徒にその傾向が強いとか。「剛健」は女性上位になりつつあるのだろうか。今年は、東京修猷会もOGの皆さんに大いに活躍して欲しいと願っている。修猷のOB、OGが一体となった東京修猷会の前途が楽し

みだ。運動部だけでなく、新聞部、

部の一四九九年（昭和二十四年）に、女子の生徒にその傾向が強いとか。「剛健」は女性上位になりつつあるのだろうか。今年は、東京修猷会もOGの皆さんに大いに活躍して欲しいと願っている。修猷のOB、OGが一体となった東京修猷会の前途が楽し

まず400m女子。二年生の富山和子さんと三年生の津留加奈さんが出場。富山さんは残念ながら予選で敗退したものの、津留さんは六位に入賞。とても美しい走りでした。表彰式では酷使したためか片足ピツコをひいており後日の



大健闘で少年女子FJ級六位に入賞でした。二〇〇五年の夏は、期せずして修猷女子のスポーツでの活躍をとおして、「文武両道」の精神が心・体を健やかに育て、生きる喜び・感動・強さを与えてくれるものと改めて感じました。修猷健児の活躍に乾杯！

事務局だより

早いもので、もう一年が過ぎ新しい年を迎えました。昨年一年間も皆様のおかげをもちまして、二木会、総会を中心とする東京修猷会の行事をこれまで以上に盛会に執り行うことができました。改めてご協力に感謝いたします。

昨年一月の二木会では大阪から葉室鐵夫先輩（昭和十年卒）を講師としてお迎えしました。いうまでもなく葉室先輩は昭和十一年（一九三六年）のベルリンオリンピックでの200m平泳ぎの金メダリストです。会場にはヒットラーも応援に来ていたという中で、ドイツの選手を破つての優勝秘話は、歴史の重みとともに大きな感動、感慨を私たちに与えてくれました。残念なことには葉室先輩は昨年十月に八十八歳で急逝なさいました。そのつい数日前には近畿修猷会にご出席なさっていたというこ

とで、最期まで私たち後輩に笑顔と修猷の誇りを与えてくださいました。謹んでご冥福をお祈りいたします。さて昨年の特色として挙げられるのが若い人たちが、特に学生の出席が多かったことでしょう。四月の二木会に二十名近い学生が顔を見せられただけでなく、毎月二木会や総会にも常時十数名が必ず出席し、熱心に先輩講師の話に耳を傾けていました。その後の二次会にも付き合ひ、大先輩たちとの交流の輪を広げています。

今年六月の総会の担当は昭和五十五年卒の皆さんです。彼らが総会で目指すものは、まさに東京修猷会の会是とも言える「誘掖（ゆうえき）」導き助けること」です。連綿と続いてきたわが東京修猷会が、これからの若い世代の方々にも引き継がれていくようにとの思いを込めて、担当学年の皆さんは企画案を練りに練っています。六月の総会を楽しみにしていただきたいと同時に、本年の二木会もいっそう充実させていきたいと考えています。

執行部一同、今年一年間も「老壮青」「男女」がともに「修猷の卒業生でよかった」と思えるような同窓会運営を行って行く所存です。よろしく願ひいたします。

（幹事長 渡辺 俊介）

平成17年度寄付金

平成16年11月1日から平成17年10月31日までに168名の皆様から寄付金が納入されています。ありがとうございました。お礼の意味を込めてお名前を掲載させていただきます。（敬省略。卒年別。順不同）

また、年会費の納入をまだ済まされていない方は、同封の郵便振替用紙にて早速ご送金くださるようお願い申し上げます。

（1口3千円。3千円以上大歓迎。3千円を超えた額は寄付扱いします。）

00170-6-172892 東京修猷会事務局

修猷館同窓会本部（福岡）、古田智信（館長）、無津呂武（恩師）、大島毅一（昭4）、富田明德（昭9）、橋本胖（昭11）、鎌田正行・宮川一二（昭12）、明石隆次・高川正通（昭15）、安藤雄三（昭17）、手島一男・不破敬一郎（昭18）、田尻重彦・早野俊一・毛利昂志（昭19）、尾島成美・ジャニイ岩橋・山田義博（昭20（5））、井上博夫・田中庸夫・野上三男・山本敏男（昭20（4））、太田昭・稗田孝道（昭21）、木下洋一・杉島千秋・濱田理・南雲進（昭22）、荒谷俊治・伊岐和男・井上洋一・大西勇・白木彬雄・田尻利重・松岡春樹・柳泰行（昭23）、岩佐知弘・山本義治（昭25）、石塚和男・太田進・大平修・小西正利・中上通敏・中村道生・広瀬貞雄・藤吉敏生・淵上貫之（昭26）、飯田英子・金田久仁彦・榊喜美子・難波榮彦・福田純也・和栗真次郎（昭27）、真武保博（昭28）、斎藤弘子・高木道子・永井充子・長尾淑實・長野俣士・村越登（昭29）、稲富治・喜多村寿信・久保久・坂本幸治・遠山壽一・原田雅弘（昭30）、阿部公明・金谷弘・岸川浩一郎・中村保夫・中山悠・箱島信一・村田和夫（昭31）、井上智晴・島上清明・野間正己・平野熙幸・松本智恵子・吉村剛太郎（昭32）、伊藤純江・河野理・城みよ子・寺澤美和子・貫隆夫・藤本規矩・松永貴子・米倉實（昭33）、大谷南郎・尾崎文彦・加藤泰・川辺誠治・讀井邦夫・伴拓郎・行武賢一（昭34）、小野勝利・可児晋・田代信吾・中村純男・羽立教江（昭35）、安藤誠四郎・久保田勇夫・田中純一・田中直樹・土井高夫・光安哲夫・横倉稔明（昭36）、石崎正典・大須賀順彦・牧文一郎（昭37）、高木佳子・龍野孝雄・渡辺紀大・渡辺俊介（昭38）、久保田康史・田中滋章・松本陸彦（昭39）、田村幸雄・長谷川閑史・森秀則・山良範泰（昭40）、新井眞理子・淀川和也（昭41）、石川透・小川和夫（昭42）、広瀬豊・松崎幹男（昭43）、城戸優・長末清美・横田勝介（昭44）、本田由紀子（昭45）、大島宏樹・塚本幸一（昭47）、井手富士雄・古森光一郎・橋村秀喜（昭49）、乙藤光男・野中哲昌・真崎理香（昭50）、安東泰隆・加藤純一・桐明幸弘・久保田馨・高見信三・時枝一徳・若林美和子（昭51）、鐘川誠司・古賀敏文・田代佳子・寺岡隆宏・徳永寛（昭52）、上蘭勉・島野正興・新納康彦・橋崎健・濱田正弘・堀安裕・村田隆信（昭53）、伊藤健太郎・権藤祐司（昭54）、井手慶祐・齋藤百合子・奈良郁子・福原直通（昭58）、渡辺守（昭59）、朱雀誉史・諸隈慎一（昭60）、秋本泰行（H13）

平成十七年 二木会

- 第517回 H17.1月 葉室 鐵夫（S10卒）
元毎日新聞記者、ベルリンオリンピック200m平泳ぎ金メダリスト
『ベルリンオリンピック金メダル秘話』
- 第518回 H17.2月 広瀬 貞雄（S26卒）
広瀬家第11代 広瀬淡窓の末裔
『広瀬淡窓と日田』
- 第519回 H17.3月 菅 聡子（S56卒）
お茶の水女子大学大学院 助教授
『〈女性〉作家であること〜樋口一葉をめぐる』
- 第520回 H17.4月 伊藤 実喜（S45卒）
伊藤医院 院長
『Dr.Magicは笑いの伝道師』
- 第521回 H17.5月 田中 素香（S38卒）
中央大学経済学部教授
『EUの経済統合と中・東欧諸国の加盟』
- 第522回 H17.7月 植木 とみ子（S43卒）
福岡市教育委員会教育長
『ちよっとだけキーを上げて〜ワタシ流教育行政実践中』
- 第523回 H17.9月 西園 マーハ文（S54卒）
東京都精神医学総合研究所・医学博士
『摂食障害とは何だろうか』
- 第524回 H17.10月 荒谷 俊治（S23卒）
日本指揮者協会会長
『世界の名ホールに挑戦』
- 第525回 H17.11月 高岩 淡（S23卒）
東映株式会社取締役会長
『戦艦ヤマト出撃！』
- H17.12月 忘年会